本日も熊本労災病院の HP を訪れていただきありがとうございます。

何度かの猛烈な寒波と爆弾低気圧の襲来を経て、少し厳冬の先が見えてきました。雪の多い地域は雪崩の懸念をしないといけない時期です。小中学校の頃は、春の香りがする頃に、体育館の屋根から猛烈な勢いで雪が落下するようになり、周辺にはロープが張られて近づけなくなったものでした。八代城跡の北側（北の丸跡）に松井神社がありますが、その境内、道路から入ってすぐのところに、細川三斎がお手植えしたという梅の木があり、その枝振りから「臥龍梅」と名付けられていて、県の天然記念物になっています。花が無いとき見るとちょっと「がっかり」ですが、2 月中旬から 3 月は見頃とのこと、もうそろそろ時期ですので、コロナ禍疲れを癒やしに行かれてはいかがでしょうか。

そのコロナ禍にも、少し「雪解け」の雰囲気が見えてきました。熊本県でも、独自の緊急事態宣言が解除され、労災病院でも、先行接種という、ワクチンのお試し接種が始まっています。突貫工事で類をみない速さで、全く新しい方法で作られた今回のワクチンは、現在までの結果をみると、世界中の多くの人に希望を与えるものであり、古来人類を悩ませてきた多くの感染症やがんの治療薬と同様、その開発はノーベル賞級の評価を得てしかるべきものと感じます。国内でも、私たち先行接種をうける 4 万人の医療従事者が、その専門知識の基礎をもって接種を体験して個別に評価を行い、またそのデータが速やかに集積されて、今後の一般の方の接種に活かされることになります。あくまでも接種は個人の意思ですが、極めて少数のアナフィラキシーはあるものの、その対処方法も確立しており、現時点で積極的に接種を忌避する要件はないように感じます。数ヶ月、実際に陽性患者さんを受け入れ、また県内医療機関の状況をつぶさに見てきた立場として、感染者が減る有効な手段としてお勧めしたいと思っています。

目下の社会全体の関心事は、COVID-19 はもちろんですが、進行しつつあるワクチン接種と、オリンピック準備ということになりましょう。いずれも、医療体制とセットで語られます。「医療体制の逼迫の度合い」が、社会規制の物差しになっていますが、逼迫の定義は曖昧です。COVID がなくても、看護師さんの数は恒常的に不足しており、診療報酬で規定されるような患者さんあたりの最少人数はもちろん確保して定員が決められますが、その定員自体、すでに余裕がありません。当院の看護師さんは、3 交代のシフトになっていて、原則 0 時（深夜勤）、8 時（日勤）、16 時（準夜勤）それぞれ開始、という勤務に日ごとに就くことになります。その勤務表は、各病棟の師長さんが作ります。勤務の間に、年休や、土日の代休、などが入ってきて、たとえ日が変わっても日勤から翌日深夜勤になるとインターバルがとても短くなるので避けるとか、昔から、列車のダイヤのような表をアナログで作るのをみていて、その都度感嘆していました。今は作成支援ソフトがあるようですが、相手が生身の人間ですので急な変更もあり得ます。そこに、陽性患者の入院に伴う看護単位の再編成などがはいるとたいへんな事になるのは容易に想像がつきます。今は解除しましたが、当院では、もともと一つの看護単位だった病棟を、陽性者用と非陽性者用に二つに区分して、それぞれ別の看護単位にする、というようなことを行いました。20 人単位を

3 交代に分けるのと、独立した 10 人単位を 3 交代に分けるのは、母集団が少ない方が難しいことは自明の理です。患者さんからの感染リスクのみならず、この勤務態勢の厳しさが、現場での医療の逼迫の現実につながります。ワクチン接種も、通常の医療に附加される業務です。接種を行う医師や看護師だけで無く、予診票のチェック、緊急用のスタンバイなど、要する医療者は、1 ラインで数名になります。感染蔓延が下火になった今でほんとうに良かったと思っていますが、実際の感染対応とワクチン接種が重なっていたら、かなりたいへんだったと思います。ただし、職員の名誉の為に付け加えれば、昨年の豪雨災害でもあったように、ことがあれば、みんな、なんとか一肌脱ごうと燃える性（さが）を持っています。ですから、陽性者の入院受け入れでも、ワクチン接種でも、やろう、ということになってそれが合理的であり、また自身の能力が活きるなら、それぞれの調整と努力で、「なんとか」します。1 月下旬に職員に陽性者が出たときは本当に皆様にも御心配をおかけしましたし、看護職員はじめ緊張は極度に高かったと思いますが、なんとか広がりを防いで今に至りました。今後のワクチン接種に関して、この八代医療圏で労災病院がどのような役割を果たすべきなのかまだ見えていませんが、必要とあらば、できるだけの努力をしたいと思っております。ただし、いつでも求められる通常の医療は継続するべき事が原則ですから、その一点は守りたいと思います。

オリンピックは、あればきっとみんなで楽しむと思います。でも、競技会場での感染があったり、外国選手からの持ちこみが顕著だったり、あるいは、国内の各病院や地域で感染治療体制をギリギリの状態で維持しなくてはならない蔓延があったり、などの環境では、なかなか楽しめないのかなと感じます。さらに、日本は良くても、感染対策のためにスポーツどころではない、という国もあるかもしれません。そのような状況を、直前ではなく、数ヶ月前に占うことが求められ、その責任者は本当にたいへんと思います。やるとなったら、各自の立場で支えるしか無いと思います。

医療体制の逼迫は、絶対的な基準でははかれません。現場が「逼迫」といえば、それを信じていただくしかない、ということでしょうか。

この間、国からは、数次の補正予算などで手厚い支援をいただいています。ＪＡ八代（八代地方トマト・メロン販売連絡協議会）からは大きなトマトをたくさんいただき、さらには、えがおの黒酢、マクドナルドのお食事券をいただくなど、暖かい直接的ご支援もあります。厚く感謝申し上げるとともに、甘えること無く、私たちもさらに体制を整備し、より大きい負荷に耐える機能を向上させたいと思っております。